

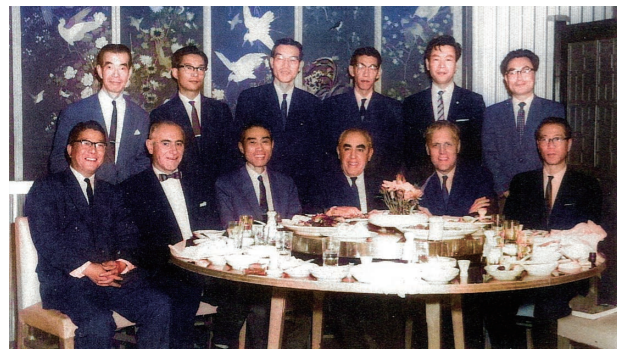
1964年の創業から半世紀以上の歳月をかけて培った知見と技術をもとに、触媒を通じた「新たな価値」の提供に挑戦し続けています。

黎明期  
1964～1978

### 触媒メーカーとして、高度成長期の日本の化学産業の発展に貢献

当社(当時:日本エンゲルハルド株式会社)は、1964年4月9日、住友金属鉱山と米国Engelhard社の折半出資で設立されました。総勢37名からスタートし、同年には市川研究所が開設され、1970年には現在もなお製造および研究開発の拠点である沼津工場(現沼津事業所)の操業を開始しました。

製品群は多岐にわたり、触媒をはじめ、化成品(貴金属塩、メッキ薬品、電極など)、金液・ラスタ、貴金属の回収精製事業を通じて、日本の化学産業の発展期を支えました。



初代経営陣



操業開始当時の沼津工場

躍進期  
1979～1995

### モータリゼーションの発展にともない排出ガス浄化触媒事業を拡大

1979年に自動車排出ガス触媒の製造を開始しました。自動車の普及が進み、排出ガスに含まれる一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NOx)などの有害成分の人体への影響が問題視され始め、その後排出ガス規制の強化にともない、排出ガス浄化触媒事業は急速に拡大しました。

1989年6月に社名を「エヌ・イー ケムキャット株式会社」と改め、同年9月には、株式を公開しました。



触媒コンバーター



自動車排出ガス触媒初出荷の様子

拡充期  
1996～2019

### 日本から海外へ環境貢献事業の拡大へ

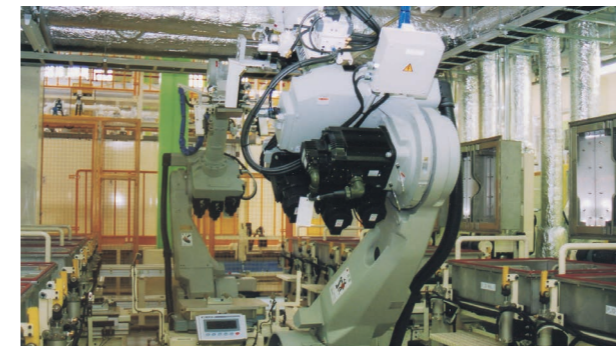
1996年にグローバル展開を開始し、2002年までに、シンガポール、タイ、中国等に拠点を拡大しました。

研究開発部門では、燃料電池自動車(FCV)向け電極触媒の可能性を見据え、研究開発プロジェクトを開始しました。また、ディーゼル自動車の排出ガス規制強化を受け、ディーゼル自動車触媒の量産体制を整えるために、2002年につくば事業所を設立しました。

2010年には、スピーディな意思決定を可能とするため、株式上場の廃止を決定し、住友金属鉱山とBASFグループの折半出資の会社となりました。



BASFケムキャット(タイランド)リミテッド



ディーゼル自動車触媒の量産設備

次なる挑戦のステージへ  
2020～

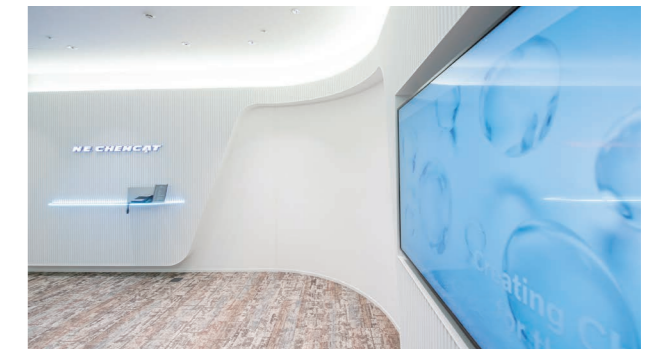
### 持続可能な社会の実現に向けサステナビリティ経営を推進

2020年7月には沼津事業所が50周年、2021年5月には本社オフィス移転、2022年2月にはつくば事業所が20周年と、当社の節目を迎えました。

2021年4月には新しく「経営理念」を策定し、サステナビリティ経営の推進を開始しました。

さらに、当社が2030年までに目指す方向性を定めた「ビジョン2030」の達成およびSDGsへの貢献に向けて、体制の変革を進めています。

また、2022年4月には新たなコーポレートタグライン“Excite the Imagination”を制定しました。



2021年5月に移転した新本社オフィス

**N.E. CHEMCAT**  
Excite the Imagination

“Excite the Imagination”にはより良い未来をつくるための想像力を駆り立て、社員一人ひとりのワクワクする気持ちを大切にしながら、新しい変化を生み出そうという当社の思いが込められています。